

10.21闘争に結集せよ



9.17現地に決起した動労千葉地本

階級闘争の内乱的成熟を。プロ独へ！

有事立法——朝鮮侵略反革命を労働者階級の力で粉碎せよ

游 擃
東京

共産主義者同盟政治機関紙

第48号

1978.10.5

定価 150円

北游 沢擊 普社

人所 東京都世田谷区局号

千歳 郵便箱4

私書 東京0-195783

振替 10回2000円(開封・送料共)

2500円(密封・送料共)

全国の同志諸君！ 今秋期の階級情勢は、プロレタリアート人民にとって重大な煮つまりを呈している。それは日帝ブルジョアジーによる朝鮮侵略反革命体制の一挙的強化の態であり、日本帝国主義の最後の防衛線である軍事的支柱の強化である。「有事立法」をめぐる日帝権力の様々なアドバルーンは、支配階級をしてただならぬ事態が到来しつつあることを直々に吐露せしめている証左である。こうした事態こそプロレタリアートがブルジョア独裁を打倒し、社会主義の政治任務を鮮明化させるためのこのうえない成熟であり、革命党と革命的人民の歴史的登場の決定的チャンスである。わが同盟は、今秋期十・二一闘争を全民族中央政治闘争として闘い抜くことを提起する。十・二一実行委員会の提起のもとに、すべての労働者階級、闘う人民は結集せよ！ われわれはこの間の『游撃』紙上で提起してきた、ブントの急進民主主義、反スターロコツキズムの清算をテコに十・二一実行委を支持し、ともに闘わんことを訴える。

9.17闘争に一五〇〇〇

九月一七日、第一次百日闘争の総決算として、三里塚空港粉砕全国総決起集会が現地三里塚第一公園において開催された。この日、前夜たいまつデモを闘いぬいた（五〇〇人を先頭に）集会参加者は一万五千人にふれあがつた。集会では冒頭、北原鉱治反対同盟事務局長が基調報告に立ち、「騒音等、開港以降のあらゆる矛盾の拡大の中で、百日闘争の成果をひきつぎ闘いつづける」との決意を表明した。北原氏は、その中で枯葉剤撤布とともに「農業振興策」なる農民への切り崩しを強く弾劾し、他方、きびしい条件のもとでジェット燃料輸送阻止闘争を闘いつづけている労動千葉地本との強固な連帯を訴えた。つづいて発言に立った反対同盟開弁護団の葉山弁護士（事務局長）は、五・二六開

港阻止闘争を開つた労働者、学生二六人を拘置所に強制移送した攻撃は、千葉地裁坂本裁判長の分離公判強要とともに、三里塚の闘う農民、労働者、学生の切り崩しをねらう、敵権力の恐怖のあらわれであり、五・二〇開港強行の破綻であることを暴露した。

本集会に特徴的なことは、五・二〇開港以降騒音問題の拡大にともない、周辺住民の新たな集会参加がはじまったことであり、このことに見られるように、開港強行の矛盾が政府・公團三・二六要塞死守戦を反対同盟、労農学の武装闘争として闘い、断固として獄中非転向の闘いを貫徹しているのが同盟の二人の戦士、そして多数の闘う仲間を一日も早く奪還しなければならない。すでに九・二〇には千葉地裁において、第一回公判闘争が闘われ、反対同盟、闘う人々の正当性が、満天下に明らかにされた。日帝一公団は、もはや三里塚の闘う人民をいくら強圧しても、闘争を庄稼できない現実をマザマザと見せつけられ、一方、労農学の固い團結は、ますます強化されていることが明らかとなつた。

今秋、獄中戦士の奪還を！

本年開港阻止闘争の突破口を切り拓いた三・二六闘争からすでに七ヶ月がたとうとしている。三・二六要塞死守戦を反対同盟、労農学の武装闘争として闘い、断固として獄中非転向の闘いを見られるように、開港強行の矛盾が政府・公團の二期工事着工を決定的に阻止している事実である。反対同盟は、この事実のうえに第一次百日闘争の終結を宣言し、拡大する全国の農民・住民闘争、労働者階級の闘いと結合し、新たな第二次百日闘争への突入を宣言した。こうした観点から、集会は、「厳戒体制うちやぶり、飛行阻止、空港粉砕」「二期工事粉碎、工

委、東水芳、三里塚統一救援会」

見せつけられ、一方、労農学の固い團結は、ますます強化されていることが明らかとなつた。

日本階級闘争におけるプロレタリアートの指導性の歴史的責務として、必ず闘う農民と團結し勝利しなければならない。そして三里塚統一公判のすべての勝利をめざし、裁判闘争、法廷内外の闘争を結合し、広範な人民の闘いを強化していく必要がある。そして何よりも今こそ獄中戦士の早期奪還、保釈をかちるために全力をつくさなければならない。獄中の二戦士は、先号のアピールで表明しているように日帝権力に拘束されつも、自らを最前線として位置づけ死力をつくして闘っている。全国の同志諸君

今号の内容

□ 資料・有事立法
□ 有事立法攻撃と侵略反革命
□ 国際共産主義運動における
コミニテルンの意義と30年代

9.13中労委に決起
全日本山闘争
全国の闘う労働者、争議団、戦闘的労働組合の仲間のみなさん！ 中労委攻防にのぼりつめた全日本山闘争は、進んでいる。八年有余の闘いの中で、本山支部の闘う労働者は、自立体制を打ち固め、闘いの中でつくり出した階級的原則と実力闘争をじつと燃料貨物輸送阻止、動労千葉と連帯して闘うぞ」「枯葉剤撤布弾劾」「有事立法粉碎」「第二次百日闘争に突入せよ」のスローガンを探探し、岩山までのデモに出発した。この日の闘争は、滑走路南側からの発着を全面的にストップし、最後まで貫徹された。

なお、反対同盟のほか、集会発言者はつぎのとおり。北富士志草母の会、日本原反対同盟、横浜新貨物線反対同盟、砂川富岡政策氏、新関西空港反対同盟、高浜入干拓反対同盟、動労千葉地本、女川原発反対同盟、三菱長船、九州住民団体連絡会議、全軍労有志、部落解放同盟、高城金通労働者、金木本山支部、伊達火力を開業、三里塚闘争に連帯する会、大東京美行委、東水芳、三里塚統一救援会。

△ 學習欄『共産党宣言』
△ 今号の内容

10.21 朝鮮侵略反革命 ——有事立法粉碎 中央総決起集会

10月21日午後6時 渋谷・宮下公園

主催 10.21実行委員会

国際共産主義運動におけるコミニテルンの意義と二〇〇年代

フランス人民戦線

(一)

阪本祥二郎

序 はじめに

「コミニテルン七回大会とフランス

人民戦線への諸前提

われわれは『遊撃』紙上でコミニテルン六回大会の極左戦術を批判し、七回大会をヨーロッパのファシズム攻勢に対するプロレタリアートの闘いとの関連で評価してきた。しかし、コミニテルン七回大会は六回大会の「第三期論」、社会会員がアシズム論「階級対階級」戦術の部分的、右翼的手直しにとどまり、ファシズムの攻勢のもとで、ヨーロッパの共産黨の現状を要動的に追認するものであった。さらにそれは、ソ連邦におけるスターリン路線によって制約をうけ、レーニンがその基礎をすえた、国際共産主義運動におけるコミニテルン（第三インタナショナル）の意義は未貫徹におわつたのである。

この「第三インタナショナル（コミニテルン）におけるレーニン主義の未貫徹」という基本視点は、われわれがマルクス・レーニン主義を今日に復権させ、国際共産主義運動を評価する基軸として欠かせないものであった。特に、コミニテルンの評価の相違がそのまま国際共産主義運動の分裂を刻印している現在、コミニテルンの革命的要素を正しく復権させる方法は、あれこれの修正主義ではなく、マルクス・レーニン主義の今日的な復権によつてしかありえないことは自明のことである。

しかし、なおそのことは、われわれにとって次の二つの事実（それ自体コミニテルンの歴史である）を考慮に入れなければならなかつた。

すなわち第一に、コミニテルンの歴史を從来の「国社会主義」世界革命の放棄という視点から批判したトロツキーの方法の批判である。

とくにトロツキーは、コミニテルンの意義を世界革命との関連で復権させる上で、二〇年代コミニテルンの活動に対して有力な論拠を有していいる。しかしその世界革命が「国社会主義」の対比にとどまるかぎり、ロシアのソヴェト共

和国における社会主義建設とヨーロッパの共産

党的な資本主義から共産主義への過渡期（プロレ

タリアートの独裁の時代における階級闘争とし

てそれを止しく復権することにはならない。

それゆえ「第二インター（コミニテルン）に

おけるレーニン主義の未貫徹」の問題も、それ

における階級闘争（ここではヨーロッパ）との

関連の中で具体的に深化されねばならない。

トリアッチは、この六回大会の路線の批判を

以降の階級闘争（ここではヨーロッパ）との

対的定期」と規定することとあわせて、資本

主義の自動崩壊論に貫かれていたのである。

トリアッチは、この六回大会の路線の批判を

以降の階級闘争（ここではヨーロッパ）との

<p

